

【震災を風化させないプロジェクト】震災伝承看板の除幕式を行います。

～ 福島県第 1 弾！ 技術者としての経験と教訓を後世に伝える看板を設置 ～

東北地方整備局、被災各県（青森県、岩手県、宮城県、福島県）及び仙台市で構成する「東日本大震災メモリアル施設整備実行委員会」では、インフラに関する東日本大震災の経験・教訓を後世に伝えるための伝承看板を整備しており、このたび福島県内の第 1 段として 3 基の伝承看板を設置しました。

このうち、福島県所管施設として初めて設置された「福島空港・あぶくま高原道路」の伝承看板について、福島県により除幕式が行われます。

除幕式日程等

- 主 催：福島県
 - 日 時：平成 31 年 4 月 19 日（金）11:00～11:30
 - 会 場：福島空港（福島県須賀川市・玉川村） 国際線到着ロビー南側屋外（別紙-1）
 - 次 第：1. 開式
2. 主催者、実行委員会あいさつ
3. 概要説明
4. ひとつ（須賀川市、玉川村、福島空港ビル(株)）
5. 除幕
6. 写真撮影・閉式
 - 招待者：須賀川市長、玉川村長、福島空港ビル(株)代表取締役
 - その他
 - 雨天決行としますが、荒天時は中止する場合があります。
 - 次第及び招待者に関しては現時点の予定であり、変更となる場合があります。
- 震災伝承看板については、東北地方整備局 震災伝承館ホームページでもご覧になれます。
http://infra-archive311.jp/sp_sign_top.html

福島県内に設置した看板の内容・設置箇所（別紙-2）

○広域支援・物資輸送を行った救援救助の拠点（福島空港・あぶくま高原道路）【除幕式開催】

（福島県須賀川市、玉川村 福島空港敷地内）

○津波被害から地域を守った「相馬バイパス」（福島県相馬市 相馬光陽パークゴルフ場内）

○津波被害からいち早く再開した地域振興の拠点（道の駅よつくら港）

（福島県いわき市 道の駅よつくら港敷地内）

<発表記者会> 福島県政記者クラブ、宮城県政記者会、東北専門記者会、東北電力記者クラブ

問合せ先

東日本大震災メモリアル施設整備実行委員会 事務局
国土交通省 東北地方整備局 TEL 022-225-2171（代表）
企画部 企画課 課 長 おおさわ しゅういち 大澤 修一（内線 3151）
企画部 企画課 課長補佐 まつもと あきら 松本 章（内線 3157）

除幕式に関する問い合わせ

福島県 土木企画課 副課長 さとう たけはる 佐藤 岳晴 TEL 024-521-7457

福島空港 震災伝承看板除幕式 案内図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。【承認番号 平30東複 第23号】





- 2018年度(平成30年度)設置箇所
- 2017年度(平成29年度)設置箇所
- 2018年度(平成30年度)福島県内設置箇所

岩泉町

① 子どもたちの命を救った避難階段
(浜の駅 おもと愛土館)

宮古市

② 海上からの緊急支援物資輸送ルートを開く
(道の駅・みなとオアシス みやこ)

釜石市

③ 子どもたちの命を救った道
(釜石山田道路)
(釜石鶴住居復興スタジアム)

釜石市

④ 救援ルートを切り開いた「くしの歯作戦」
(釜石駅前広場)

仙台市

⑤ 仙台東部道路による津波被害低減を教訓とした総合的な津波対策
(海岸公園冒険広場)

救援ルートを確認した
道路啓開「くしの歯作戦」(宮古市)
2017年度(平成29年度)設置

支援物資輸送を確保した
航路啓開(仙台塩釜港)
2017年度(平成29年度)設置

ポンプ車集中投入
仙台空港を早期“再生”
2017年度(平成29年度)設置

相馬市

⑥ 津波被害から地域を守った「相馬バイパス」
(相馬光陽パークゴルフ場)

須賀川市・玉川村

除幕式開催

⑦ 広域支援・物資輸送を行った救難救助の拠点
(福島空港・あぶくま高原道路)
(福島空港)

いわき市

⑧ 津波被害からいち早く再開した
地域振興の拠点(道の駅よつくら港)
(道の駅よつくら港)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。
(承認番号 平30 東棟、第23号)

○ 広域支援・物資輸送を行った救難救助の拠点(福島空港・あぶくま高原道路)

設置場所 福島県須賀川市、石川郡玉川村〈福島空港敷地内〉

除幕式開催

《震災伝承看板 概要》

福島空港は、巨大地震や原発事故の複合災害が発生する中、津波により被災し機能不全に陥った仙台空港の代替機能を担い、国内外の救援機や救援物資、旅客臨時便などを24時間体制で受け入れ、救難救助、人員や救援物資の輸送等の重要な拠点として、約2ヶ月間にわたり活用された。

また、福島空港に接続する「あぶくま高原道路」も被災し、通行止めとなったが、被災直後に復旧工事を開始し、わずか4日後には福島空港IC～小野IC間について緊急車両の通行を可能とした。さらに9日後には全線で一般車両の通行を可能とし、災害応急対応への緊急輸送路として大きな役割を果たした。

※設置イメージ(4月19日除幕予定)



○ 津波被害から地域を守った「相馬バイパス」

設置場所 福島県相馬市光陽四丁目2-5〈相馬光陽パークゴルフ場 レストハウス屋外壁面〉

《震災伝承看板 概要》

相馬市では、大洲海岸から約3.7kmの距離にある国道6号相馬バイパスまで津波が到達したが、高さ約5mの盛土構造であるバイパスが防潮堤として機能し、津波浸水被害の拡大を防いだ。

なお、相馬バイパスは発災後早期に仮復旧(3月18日)し、災害救助、被災地からの瓦れき搬出等にも有効に機能し、被害拡大の防止、早期の復旧にも大いに貢献した。

こうした事例がその後の津波対策の参考となり、「多重防御」の発想による津波災害に強い地域づくりが進められることとなった。



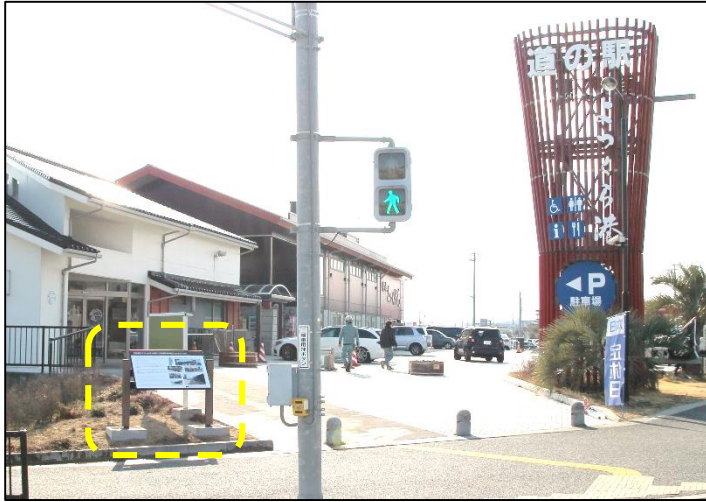
○ 津波被害からいち早く再開した地域振興の拠点(道の駅よつくら港)

設置場所 福島県いわき市四倉町五丁目218-1 (道の駅「よつくら港」敷地内)

《 震災伝承看板 概要 》

国道6号沿岸部に位置する道の駅「よつくら港」は、オープンから8ヶ月足らずで津波による壊滅的な被害を受けた。早期の復活は不可能と思われたが、会津地方の三島町や北塩原村などのボランティアの協力を得て5日間で瓦れきを撤去し、4月16日からは、毎週末の炊き出しや道の駅関係者の支援による販売イベントを開始するなど、津波被災地域の復興拠点としていち早く活動を再開した。

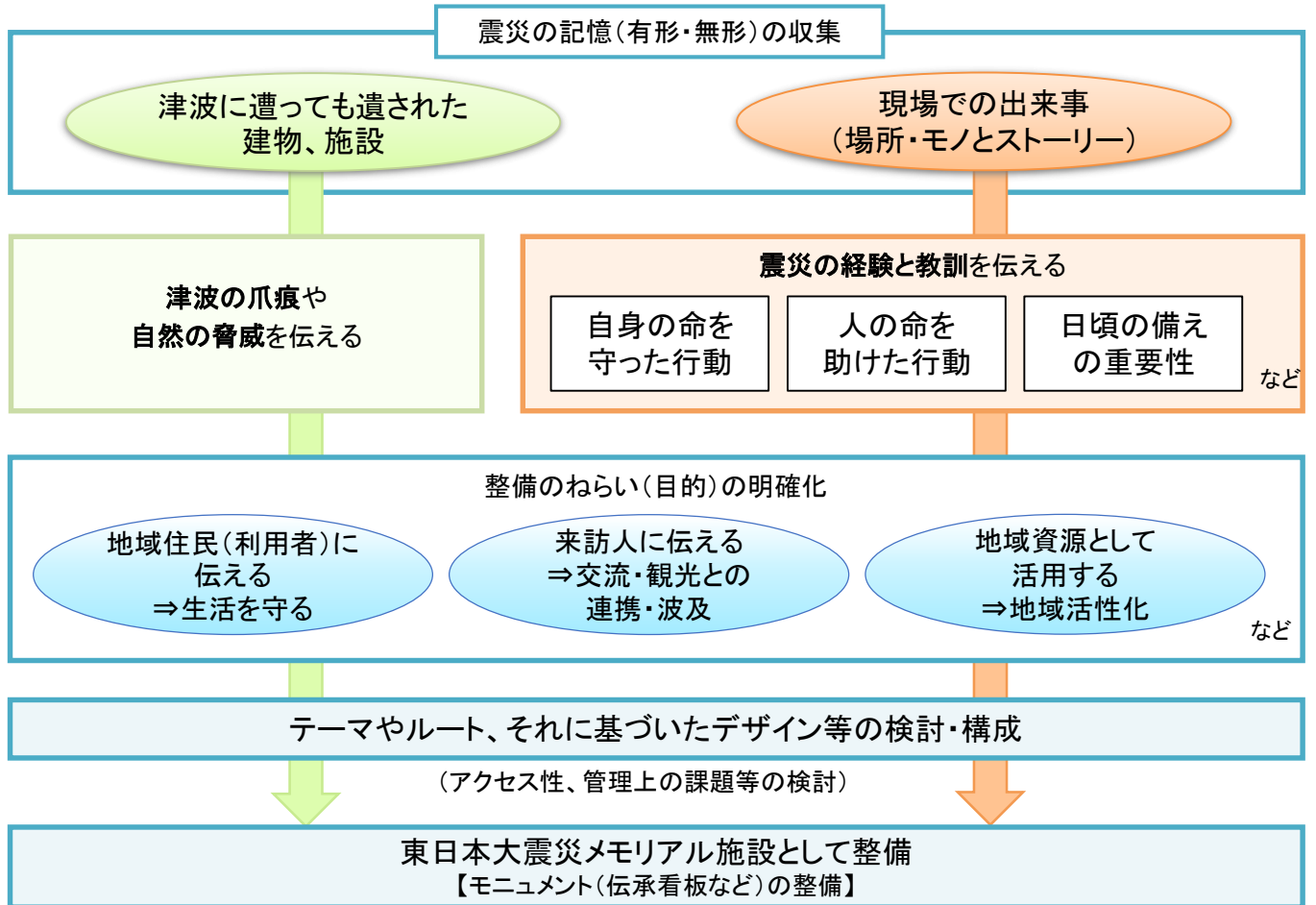
その後も地域支援イベントを継続しながら、翌年の2012年1月には大型テントで仮営業開始。同年8月11日にリニューアルオープンを迎え、現在は海水浴場やマリンスポーツで賑わう地域復興の拠点となっている。



東日本大震災メモリアル施設整備事業

プロジェクトの目的

- ◆震災の経験と教訓を風化させず、忘れずに、後世に伝える
- ◆広く、多くの人へ発信・見て触れて感じる・そこにあったストーリーを伝える



〈 実行委員会 体制 〉

「東日本大震災メモリアル施設整備事業」の構成機関は以下のとおり

- 東北地方整備局(事務局)
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 福島県
- 仙台市

〈 伝承看板の設置例 〉

「支援物資輸送を確保した航路啓開」

仙台市宮城野区(スリーエム仙台港パーク 展望台)
2018.2月設置

